

思考力・判断力・表現力の育成につながる単元構成 ～公民的分野「よりよい社会を目指して」の実践を通して～

竹崎 葉子

はじめに

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、教育課程編成の一般方針の中で、学校の教育活動の改善の要点として「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力などの育成」「言語活動の充実」が示された。社会科の公民的分野では、内容項目として新たに(1)のイ「現代社会をとらえる見方や考え方」と(4)のイ「よりよい社会を目指して」が設けられたが、この内容項目はこれらの改善の要点を受けて新設されたものであり、新学習指導要領改訂のねらいに迫る上で大変重要であると考えた。そこで、社会科のまとめとして位置づけられている(4)のイ「よりよい社会を目指して」を、「思考力・判断力・表現力などの育成」と「言語活動の充実」の2点をねらいとして単元構成を考え、平成20年度に先行実施した。

その後、平成20年9月には中学校学習指導要領解説社会編が示されたことや、本校でも平成21年度に「子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学習～思考力、判断力、表現力を育てる学習活動の実践」をテーマとした研究実践をおこなったことから、平成21年度は新たな単元構成で、同内容を実施した。

先に述べたように(4)のイ「よりよい社会を目指して」は、社会科のまとめとして位置づけられていることから、この単元で育てるべき思考力・判断力・表現力は、これから社会に出ていく生徒たちが、これからも自ら社会の中から課題を発見し学びつづけ、社会参画につながる力でなくてはならない。以上のことから、平成20年度と平成21年度いずれの実践も個人研究をベースとした実践を行った。

平成20年度と平成21年度の単元構成の大きな違いは、生徒がかかわり合って学ぶ学習活動の有無である。本研究では、思考力・判断力・表現力の育成につながる個人研究のあり方について考察し、「生徒がかかわり合って学ぶ学習活動を取り入れることは思考力・判断力・表現力の育成につながるか」について検証していきたい。

1. 平成20年度の実践から

内容(4)のイ「よりよい社会を目指して」に関する新学習指導要領の記載は次のとおりである。

内容 (4) 私たちと国際社会の諸課題

イ よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

内容の取り扱い (5) 内容の(4)については、次のように取り扱うものとする。

イ イについては次のように取り扱うものとする。

(ア) 身近な地域の生活や我が国の取り組みとの関連性に着目させ、世界的な視野と地域的な視点に立って探究させること。

(イ) イについては、社会科のまとめとして位置付け、適切かつ十分な授業時数を配当すること。

まず、内容として「自分の考えをまとめさせる」ことがあげられている。各地の市教委が開催している新学習指導要領の説明会では、この単元を中学校における「卒業論文」「卒業研究」といった表

現で説明している場合もある。つまり、生徒一人ひとりの個人研究をイメージしていると考えられる。今回の改訂の要点である「言語活動の充実」という点からこの単元を考えると、探究の過程をレポート形式にしたり、探究した結果を新聞形式やポスター形式にして、書いたり発表することで論述をおこなうことが大切になってくる。

次に、内容の取り扱いにおいて「適切かつ十分な授業時数」の配当を求めている。しかしながら、中学3年の3学期といえば入試の直前である。この時期に時間を充分にとるのは、大変困難である。そこで1学期に課題設定をし、単元を学期ごとに分け、3学期の最後にまとめをする方法を考えた。先に述べた「言語活動の充実」という点からも、探究の過程では、グラフや図、文章などを読みとく力の向上が不可欠である。PISA調査では「書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する」力が読解力であると定義している。しっかりと資料となる本と向き合い熟考する時間を長期休業中に行うことができるのが、1学期に課題設定をすることの大きな利点である。

本単元では、思考力・判断力を育成し、思考・判断したことを他者に自分の言葉で伝える表現力を育てるため、課題を解決していく過程に、仮説検証学習を取り入れた。これまで習得した知識や概念から、課題を設定し、その答えとして仮説を立てて検証し、検証の過程で、新たな疑問が生まれることでさらなる探究につながっていくと思う。また単元を学期ごとに分けて実施することで十分な検証時間を保障することによって思考力・判断力・表現力の育成につながっていくと考える。

(1) 授業の実際

この単元を「卒業レポート」と名付け、全8時間の構成とした。

ア1学期～第1時

第1時は課題設定をおこなった。まず「地理と歴史の学習を終えて、現代社会において、今一番解決しなければならない問題は何かとあなたは考えますか?」という問いかけをした。

その問いをもとに、ワークシート1の①「今一番解決しなければならない問題は?」、②「この問題意識からどのような事を調べるのか?」を記入した。その後、ワークシートに調べ方のアドバイスを教師が記入し返却し、夏休みに②の疑問を本で調べてくるよう指導した。(資料1)

イ2学期～第2時

ワークシート1の③「問題意識を掘り下げよう(調べたこと)」に本で調べた内容をまとめ、調べた本の名前も書いて夏休み明け提出させた。(資料2)

このレポートをもとに、ワークシート2「新しい問題意識」に調べたことでわいてきた新しい疑問を記入した。この新たな疑問から、次のテーマを決め、仮説を立てた。例えば、右のレポートを作成したTは「なぜ少子化がすすむのか」という疑問に対して「子供を育てていくのは経済的に大変だからだろう」という仮

(資料1)

(資料2)

(2) 実践からわかったこと

次の文は、この単元を終えた生徒の感想である。

今までワークシート①、②を使って「少子高齢化」について追求してきました。おかげで、現在、少子高齢社会が社会に与える影響などが分かりました。今でこそ、実感しにくいものですが、将来的には一体どうなるのか全く分かりません。常に新聞などをチェックし、時事に関心を持っていくことが、自分ができることの一つだと思います。

対策としては、少子化について言えば、出産・育児環境の職場での充実を図ったり、援助を今まで以上に、行政機関を中心にしていかなければならないと思います。高齢化は、高齢者の労働力を企業が活用できれば、仕事をしたい高齢者や、ベテランを必要とする企業にとっては双方にメリットがあり、促進していいのではないのでしょうか。

日本は今、少子高齢社会となっています。この現状を改善したり、ダメージを少なくしていくのが、日本の、ぼくたちの、これからの課題の一つである、そうぼくは、今までの学習を通して感じました。
(生徒R)

今回こうやって一つのことを一年間を通して調べていくことで、たくさんを知ることができたと思います。日本の食糧自給率にしてもとても低いことがわかりました。それは、いろいろな事に関係しており、いかに輸入にたよっているのかもわかりました。人間の生活に欠かすことのできない食べ物のことなので、自給率を上げて欲しいし、また輸入をそのまま保つことができるように外国との交友関係を保ってほしいです。
(生徒N)

下線部の記述の端々からは、「双方にメリットがあり」といった多面的・多角的な考察や、食糧自給率の問題を、日本の国内問題だけでなく「いろいろなことに関係」しているといった事象間の関連をつかんでいるようすがうかがえる。また、個人研究の形式で継続したレポート作成をおこなったことは新聞や発表原稿にみられるように、自分の言葉で表現する力につながったと思う。このことから、①個人研究形式で探究させる②仮説検証学習を取り入れる③3学期をまたぐ単元構成で実施するという3点は次年度に生かしていくことを考えた。

2. 中学校学習指導要領解説社会編および平成21年度の研究から

平成20年9月に中学校学習指導要領解説社会編が示され、より詳しく内容(4)のイ「よりよい社会を目指して」の位置づけが明らかになった。内容の解説として「課題の探究については、一定の方法があるわけではないが、一般に、課題の設定、資料の収集と読み取り、考察とまとめ、といった手順が考えられる。その際、例えば中間発表、ディベート、議論、プレゼンテーションなどをさせ、最終的にはレポートを提出させることが考えられる。」といった例が示された。さらに、内容の取り扱いとして「例えば、レポートの作成において、視点を明確にして事象の差異点や共通点を報告すること、事象を概念や法則などを用いて解釈し説明すること、情報を分析して論述すること、議論などを通して互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることなどを通して思考力・判断力・表現力等の育成を図ることなどの工夫が必要である。」と述べられている。

これをうけ、平成21年度には(4)のイ「よりよい社会を目指して」について、いくつかの具体的提案がなされた。たとえば、桑原敏典氏は年間指導計画での位置づけ、授業づくりのポイントや、佐藤育美氏、小笠原優貴氏とともに政策選択アプローチを応用した具体的な授業モデル等をしめしている。この提案では、年間指導計画の最後に単元全体を位置づけ、探究する課題については、「地域格差問題をどのように解消するか」といった共通のテーマを設定している。この提案では、探究活動の成果発表会を行い、教師や友達から受けた指摘をふまえ、自分の考えを見直しレポートを作成するという単元展開になっている。

確かに、個人研究形式の探究活動の場合、共通テーマのように友達から指摘が出にくく、議論にな

りにくいことが考えられる。昨年度の実践でも、グループ内発表は、わかりやすい発表であるかという点の相互評価であってテーマについての議論にはなっていない。思考力・判断力・表現力の育成に議論が有効であることについては、平成21年度に「子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学習～思考力、判断力、表現力を育てる学習活動の実践」いうテーマのもと附属学校園社会科学部で研究をおこなってきた。この研究実践の検証から、以下の4つの学習活動を設定した単元構成が思考力・判断力・表現力の育成につながるということがわかってきた。

- a 具体的な活動や体験の中から、問題を発見したり必要な情報を収集する学習活動。
- b 他者とかかわり合いながら、発見した問題を整理し、共通の課題としてとらえる学習活動。
- c 自分とは違った見方・考え方をもち他者とかかわり合いによって、これまでの見方・考え方をゆさぶる学習活動。
- d 思考・判断したことを、根拠をもって自分の言葉で他者にわかりやすく伝えることにより、対話が成立する学習活動。

これらのことから、昨年度の単元構成をもとに、bの活動として中間発表を、cの活動として議論を、dの活動としてプレゼンテーションを加え、単元を構成し直した。

3. 研究仮説

(4)のイ「よりよい社会を目指して」を通年の個人研究形式で行い、他者とかかわり合って学ぶ学習活動を取り入れた単元構成にすれば、思考力・判断力・表現力が育つであろう。

4. 今年度の実践

(1) 研究内容

内容(4)のイ「よりよい社会を目指して」を通年の個人研究形式で行い、他者とかかわり合って学ぶ学習活動を取り入れた単元に構成し直すことによって、思考力・判断力・表現力を育成することにつながったかを研究内容とする。

(2) 研究方法

3年生4クラス(155名)を対象として、内容(4)のイ「よりよい社会を目指して」を単元「卒業レポート」として個人研究をベースとし、他者とかかわり合って学ぶ学習活動を取り入れた単元構成で実施し、思考力・判断力・表現力を育成することにつながったかを、生徒の記述、生徒対象アンケートにより検証する。

(3) 研究の実際

平成20年度は、地理的分野と歴史的分野の学習につづけて、現行学習指導要領内容(1)をおこなない、その後課題設定をおこなったため、「持続可能な社会を形成するという観点」についての視座が、日本の社会に偏っていた。グローバルな視点から課題設定できるよう、平成21年度は地理的分野と歴史的分野の学習に続けて、内容(4)のアを学習した。

単元構成については、次の5点を変更した。

- ①課題設定時に、現代における諸問題を大まかに分類したもののうち、自分の課題がどれにあたるかを分類させた。これは、かかわり合って学ぶ単位としての班をつくるためである。(資料6参照)
- ②世界規模の問題を、身近な地域の生活やわが国の取り組みと関連させてとらえるために、問題に対して日本や身近な地域ではどのような対策をとっているかを考える活動を取り入れた。
- ③同じ分類のテーマで個人研究をしてきた生徒で班をつくり、作成したレポートや図表などを使って、自分の調べたことを班員に説明する中間発表をおこなった。この活動は、先に述べた「他

者とかかわり合いながら、発見した問題を整理し、共通の課題としてとらえる学習活動」として取り入れた。

- ④班で「他のテーマで探究してきたクラスメートにどのようにこの問題の原因や現状を伝えたら、重大さを理解してもらえるだろうか。」というテーマで議論をした。同じテーマで探究をしてきていても個人研究として探究したため、原因や現状、解決方法についての認識は違い、議論することが大切になる。この活動は先に述べた「自分とは違った見方・考え方をもつ他者とのかかわり合いによって、これまでの見方・考え方をゆさぶる学習活動」として取り入れた。
- ⑤班員で、発表原稿を分割して作成することによって、つながりや論理展開に矛盾がないかなどを、班員で検討し合う学習活動を取り入れた。

(4) 単元構成

時 間	学 習 課 題	学 習 活 動
1 学期 1	現代社会における諸問題のうち、一番解決しなければならない問題は何だろうか。 また、この問題の原因や現状はどうなっているのだろうか。	①ワークシートを記入し、卒業レポートの課題を設定する。(資料6) ②この問題をくわしく調べるために、探究する課題を設定する。 ③原因や現状について、何について調べればよいかを考える。
夏休み	(この問題の原因や現状はどうなっているのだろうか。)	①本から問題を調べる。 ②レポートにまとめる。(資料7)
2 学期 2	この問題について、さらにくわしく知るためには、どのような点を追究すればよいだろうか。	①探究する課題をさらにしぼる。 例:「地球環境を守るためにはどうすればいいか」→「二酸化炭素の排出量を減らすにはどうしたらいいか」
3	この問題は、なぜ現在解決していないのだろうか。	①解決に至らない理由について、仮説を立てる。 ②仮説を検証するために何を調べればよいかを考える。(資料8)
4	この問題について、国際機関や世界各国はどのような対策(解決方法)をとっているのだろうか。また、日本や身近な地域ではどのような対策をとっているのだろうか。	①パソコン室や図書室で調べ、レポートの続きにまとめる。 ②レポートの最後に、これまで調べてきた原因、現状、対策を説明するためにA4一枚程度に図表やグラフ、イラストをつかってまとめる。(資料9)
期末テスト時	(第4時のテーマについて) 200字以内で答えなさい。	①レポートにまとめたことを、自分のことばで他者に伝わるよう説明する。(資料10)
3 学期 5	同じテーマで探究してきたクラスメートはこの問題について、どのように原因や現状をとらえ、どのような解決方法を考えているのだろうか。班の中で中間発表してみよう。	①現代社会のかかえる諸問題の中から、第1時に同じ記号のテーマ選択した生徒で班をつくり、これまで作成したレポートと第4時でまとめた図表などを使って、自分の調べたことを班員に説明する。
6	他のテーマで探究してきたクラスメートにどのようにこの問題の原因や現状を伝えたら、重大さを理解してもらえるだろうか。	①原因や現状、解決策について班員同士でお互いに疑問に思うことや納得できないことやを出し合い、議論をする。

7・8	どのようなプレゼンテーションをすれば、クラスメートに伝わるだろうか。	①パワーポイント、ポスターのうち、わかりやすさと自分が作成できるかを考え、発表形式を各自選択する。 ②一人一場面を作成することにし、班員と使用する図表・グラフ・イラストなどが重ならないよう話し合う。 ③発表原稿を分担し、一人一分の持ち時間で、原稿を作成し、下書きにまとめる。 ④つながりや論理展開に矛盾がないかを検討しリハーサルを行う。
9・10	プレゼンテーションでクラスメートにこの問題の重大さが伝わっただろうか。	①他の班の発表を聞いて、スキル面と内容の両方からA, B, C評価と文章で評価する。 ②無記名の評価表を見合ってから、本単元の振り返りを書く。(資料11)

4. 研究のまとめと今後の課題

(1) 抽出した生徒のワークシートから

(資料6；生徒Y)

問10 「世界規模の問題」のうち、あなたがさらに調べてみたいテーマはどのテーマですか？
1つだけ選んで記号に○をつけなさい。

A 領土問題 B 地域紛争や内戦 C 人口問題 D 食糧問題
E 環境問題 F 資源・エネルギー問題 G 核拡散問題 H 南北問題

(E)

なぜ調べたのか、その理由を自分の体験や授業で気づいたことと関連づけて説明しなさい。

私には、自分の住んでいる地球が環境問題に付いての番組をやるのですが、それ以外で自分自身で地球が環境問題に付いての番組をやりたい。副会長として公約にECOの日に地球をきれいにしたい。これまでの集金をへてやっぱり今の地球をなんとかしなければいけないと感じています。環境問題に関心はないし、抱き合いたいので……。

ここから下は、テストの解法や理由を記入しなさい。ただし生徒番号・氏名は書くこと。

調べた本・新聞の記事・見たニュースなど(情報源を記入)★インターネット不可
環境問題はなぜワザワザするのかわからない。(新聞記事 2009年) 2 () 2009年) 2 () 2009年)

調べた内容
環境問題はなぜワザワザするのかわからないのか？
①人口が増え続けると食糧不足になる。
②人口が増え続けると食糧不足になる。
③人口が増え続けると食糧不足になる。
④人口が増え続けると食糧不足になる。

生徒番号 氏名

(資料6；生徒M)

問10 「世界規模の問題」のうち、あなたがさらに調べてみたいテーマはどのテーマですか？
1つだけ選んで記号に○をつけなさい。

A 領土問題 B 地域紛争や内戦 C 人口問題 D 食糧問題
E 環境問題 F 資源・エネルギー問題 G 核拡散問題 H 南北問題

(C)

なぜ調べたのか、その理由を自分の体験や授業で気づいたことと関連づけて説明しなさい。

人口が増え続けると、食糧が不足して困るということを学習したけど、人口が増えて良いことは無いのか知ってみたいと思ったから。また、人口問題はなぜか、解決していかないと困る感じがするから、知りたかったから。

ここから下は、テストの解法や理由を記入しなさい。ただし生徒番号・氏名は書くこと。

調べた本・新聞の記事・見たニュースなど(情報源を記入)★インターネット不可
●人口増加の理由 経済・食糧・社会は……？
●100億人地球

調べた内容
人口問題には、大きく2つの問題がある。
① 少子高齢化問題(人口減少)
② 多産による問題(人口増大)

生徒番号 氏名

資料6の課題設定では、生徒YはEの環境問題、生徒MはCの人口問題を選択している。その理由として生徒Yは「副会長として公約にECOのとりにくみもかかげましたし、これまでの生徒集金をへてやっぱり今の地球をなんとかしなければやばいなあと感じています。」生徒Mは「人口が増え続けると食糧が不足して困るということを学習したけど、人口が増えて良いことはないのか知ってみたいと思ったから。」と書いている。自分の体験や既習の知識と関連づけて課題を設定をすることが、意欲的な探究につながると考えられるため、個人研究形式での単元構成は有効であると思う。

(資料7 ; 生徒Y)

○卒業レポート②地球規模の問題について考えよう
11月24日提出
テーマの整理と解決のための仮説を立てる 3年 3組 葉氏名

A 自分の課題 (テーマ)
「環境問題(地球温暖化)」
を解決するためには、どうすればよいか。

B この問題意識からどのようなことを調べるか
1. この問題はいつ起こったのか
19年、ゴードン・ベリンジャーの論文「ハセンが共同研究者との共著として、初めて大気-陸面-植物の気象の相互作用の論議を提唱。その後、1974年に「ハセンの論文は世界的関心事」として扱われ、1975年、ハセンの論文をまとめた「ハセンの論文」として出版された。この論文は、19世紀の産業革命がスタートしたのは間違いなく、(下には赤字で書かれている)。

2. 問題の原因(背景)は何か
原因もはっきりとはわかっていないと思われる。ただ、日本の気候変動報告書では「気候変動が重要な要素として、ハセンの論文も取り上げられている。19世紀の産業革命がスタートしたのは間違いなく、(下には赤字で書かれている)」。

3. これまでどのような解決策が考えられ、実施されてきたか(日本では? 海外では?)
京都議定書に列強国がCO2削減の義務を負った。しかし、締結後に賛同していない国も多数あり、COP16で国際的に協定したものは無い。

C 調べた本の名前を書きなさい (著者と出版社の名前も)
* 気候変動に関する本以外にも、関連する本を調べて、いろいろな観点から問題を考えよう。
・ 知りた! 100の地球温暖化の本 (岩波書店/技術評論社 2009年)
・ 地球温暖化の科学 (NHK出版/学研出版 2008年)
・ 地球温暖化とは何ぞい (S. Tafel, K. W. Weimer 編 山形県立大学 2009年)
・ 至らぬ地球温暖化 (藤沢 俊一/朝倉書店 2008年)

資料7では、生徒Yは「環境問題(地球温暖化)」を解決するためにはどうすればよいかという課題を設定し、問題の背景を4冊の本から調べている。生徒Mは「人口問題を解決するにはどうすればよいか」という課題を設定し、4冊の本から調べている。夏休み、冬休みをはさんだ通常の単元構成であったため、公立図書館などを活用しやすかったと考えられる。事後アンケートでも、「これまでテーマに関する本を2冊以上読んだ」という問いに対して「そうである」という回答は76%を占めている。

(資料8 ; 生徒Y)

D 解決するためにはどうすればよいか (仮説を立てる)
「地球の温度変化に関わること(ミラゾロバシイノボ)を調べ、それとCO2との関係をはっきりさせれば、それによってこの問題が解決できると思う。」

E 「この解決方法で問題が解決できる」と考える理由を、友達にわかりやすく説明しよう。
地球は自然に温度変化しているから、それとCO2との関係が長ければ今の気温が低くなることは間違いない。関係がわかれば、今の気温は正しい。だからこれも解決への糸口である。

F この方法で解決できると考えた根拠を検証しよう。
簡条書きで調べなくてはならない根拠を書きなさい。(仮説の検証)

- 地球の温度変化に関わることとCO2の関係があるかは無い。
- 前回の温暖期とCO2は関係があるかは無い。
- そもそも、温暖化のメカニズムは?

仮説を検証するとは、どのような根拠があれば仮説が正しいといえるかを考え、その根拠を資料から検証することです。自分の仮説にどのような根拠があるのかを、検証する方法を考えよう。
仮説の検証は、3学期にパソコン室と図書室を併せて行います。
このレポート②Dと調べたことをもとに、3学期に発表会をします。

G 解決のために自分ができていることを書きなさい
CO2を減らす排出削減の努力がある。

(資料7 ; 生徒M)

○卒業レポート②地球規模の問題について考えよう
11月24日提出
テーマの整理と解決のための仮説を立てる 3年 3組 葉氏名

A 自分の課題 (テーマ)
「人口問題」
を解決するためには、どうすればよいか。

B この問題意識からどのようなことを調べるか
1. この問題はいつ起こったのか
人口問題(負産)は、国際調査による。2009年12月10日、国連人口局が「世界人口展望2009」を発表した。世界人口は2009年12月31日現在、67億7,000万人と推定された。2009年12月31日現在、世界人口は2009年12月31日現在、67億7,000万人と推定された。2009年12月31日現在、世界人口は2009年12月31日現在、67億7,000万人と推定された。

2. 問題の原因(背景)は何か
世界人口の増加は、主に発展途上国で増加している。2009年12月31日現在、世界人口は2009年12月31日現在、67億7,000万人と推定された。2009年12月31日現在、世界人口は2009年12月31日現在、67億7,000万人と推定された。2009年12月31日現在、世界人口は2009年12月31日現在、67億7,000万人と推定された。

3. これまでどのような解決策が考えられ、実施されてきたか(日本では? 海外では?)
人口問題の解決策として、出生率の低下を促すことが挙げられる。出生率の低下は、人口の増加を抑える効果がある。出生率の低下は、人口の増加を抑える効果がある。出生率の低下は、人口の増加を抑える効果がある。

C 調べた本の名前を書きなさい (著者と出版社の名前も)
* 資料に調べた本以外にも、関連する本を調べて、いろいろな観点から問題を考えよう。
・ 100の人口問題の本 (岩波書店/技術評論社 2009年)
・ 世界の人口 (NHK出版/学研出版 2008年)
・ 人口問題とは何ぞい (藤沢 俊一/朝倉書店 2008年)

(資料8 ; 生徒M)

D 解決するためにはどうすればよいか (仮説を立てる)
「女性の地位を向上すればこの問題が解決できると思う。」

E 「この解決方法で問題が解決できる」と考える理由を、友達にわかりやすく説明しよう。
女性の地位を向上すれば、女性が働く機会が増える。子供を産み、育てる機会が増える。子供を産み、育てる機会が増える。子供を産み、育てる機会が増える。子供を産み、育てる機会が増える。

F この方法で解決できると考えた根拠を検証しよう。
簡条書きで調べなくてはならない根拠を書きなさい。(仮説の検証)

- 先進国と発展途上国の人口増加率の関係
- 1組1人の子供を産む回数
- 育児休業の取得率
- 育児休業取得後の会社復帰率

仮説を検証するとは、どのような根拠があれば仮説が正しいといえるかを考え、その根拠を資料から検証することです。自分の仮説にどのような根拠があるのかを、検証する方法を考えよう。
仮説の検証は、3学期にパソコン室と図書室を併せて行います。
このレポート②Dと調べたことをもとに、3学期に発表会をします。

G 解決のために自分ができていることを書きなさい
食料を減らす努力がある。
いろいろな本を読んで読んでいる。

資料8では、生徒Yが夏休みに調べたこと（二酸化炭素の増加が温暖化に影響している）の他にも、地球温暖化の原因があるのではないかと考え、仮説を立てている。夏休みから2学期後半までの間も、自分の課題に興味をもちテレビ番組や新聞などを見た結果、地球温暖化の原因に関する他の情報も得たようである。事後アンケートでも、「これまでテーマに関して資料を探したり、新聞を読んだり、パソコンで調べたりした」という問いに対して「そうである」という回答は66%、「自分のテーマに関するニュースなどが気になる」は同じく52%であった。生徒Mは「解決するためにはどうすればよいか」という問いかけに「女性の地位を向上すればこの問題が解決できるのではないか」という仮説を立てている。人口増加と人口減少の問題の共通性に気づいたことで、より課題が焦点化されていった。

資料9は、クラスメートにわかりやすい表現方法を自ら選択をした。これまで調べた内容を生徒Yは図、生徒Mはグラフを使いまとめた。生徒Yはの中で、疑問として「CO₂を適度なレベルにするには化石燃料を60~80%減らす必要がある→今の対策では不十分、化石燃料は使用不可に」と説明し温暖化を防止しなくてはならないという立場に立って、温暖化の原因としてのCO₂を減らすことの難しさに言及しているが、その一方「そもそも温暖化はすすんでいる？」とクラスメートに問いかけたり、温暖化が植物の育成などに役立つという「温暖化は防止しなくてはならないのか？」という見方も提起している。生徒Mは人口問題を人口減少、人口爆発の両面から説明し、いずれの解決策も「女性の地位向上」が大切であるとまとめている。

(資料9；生徒Y)

(本で調べたことを図や表を使ってまとめよう)
本を写すのではなく、Bの内容を、友達にわかりやすくまとめよう。

○地球温暖化の原因は...?○

空気中の二酸化炭素の増加 **仮説!**

〈事実〉

- CO₂は温室効果がある。
- この200年間で270~280ppmが380ppmに増加した。70がある。(200年前と比較し、産業革命後!!)
- 今、急速に増えているものから、CO₂が排出される量が多い。

〈原因〉

- でも、CO₂を適度なレベルにするには化石燃料使用量を60~80%減らす必要がある!!
- 今の対策では不十分、化石燃料は殆ど使用不可に!!
- 100年単位でも気温は1℃上昇には自然とどいていらい。氷とヒョロにCO₂は関係ない? それも温暖化し進んでいる?

〈その他の事実〉

- CO₂濃度が高い方が植物は助かる? →CO₂濃度が高い方が、ほほ新緑の気候にあって植物は育ちやすい!!
- 1920~99年間の増加は67%以上増えた。化石燃料の燃焼によるCO₂の増加は増加した。
- 温暖化が有利になる!?
- インド...モンスーンの変動が減少!!
- カナダ...異業種が減少!!
- 北極圏では海氷が融け、海氷が融けた。 →温暖化は貿易に有利!!

○結果的にCO₂の量が多いと地表に到達する紫外線が増える →温暖化

○人間がいる、いかに人間が温暖化を5500年前からCO₂が減少したと推定。した!!? 氷河期の5000年前の標準的な気候は現在よりも冷たい。 (ミカドコトバ) 最もでも温暖化が不可避に人間は含め関係が、これは!!

(資料9；生徒M)

(本で調べたことを図や表を使ってまとめよう)
本を写すのではなく、Bの内容を、友達にわかりやすくまとめよう。

人口減少 ~ 人口爆発 ~

日本人口 1億2000万人 (2000年) → 1億1000万人 (2050年)

世界人口 60億 (2000年) → 100億 (2050年)

解決策

- ・女性の地位向上、男女平等
- ・教育の普及、少子化
- ・経済の発展、生活水準の向上
- ・女性の地位向上、男女平等
- ・教育の普及、少子化
- ・経済の発展、生活水準の向上

資料10では、調べた内容（自分のテーマ、日本と各国、国際機関がとっている対策、自分の考える解決方法）を200字に要約し文章で表現した。情報を整理し、取捨選択し論理的に表現しなければならないため、要約という方法は思考力・判断力・表現力の育成につながると考え、取り入れた。生徒Yは、「多くの国がこまっているし（中略）へらすべき（後略）」と述べ、「温暖化は防止しなくてはならないのか？」という見方に自らの答えを出している。

(資料10; 生徒Y)

字は心で

私は地球温暖化について調べています。日本では京都議定書をつくり、EUの国々などがその規定に従って二酸化炭素の排出をへらそうと努力しています。しかし、アメリカや中国など二酸化炭素を多く排出している国がそれを行っていないので、その解決は先が見えません。私は、日本のとりくみに賛成です。どうやら温暖化により有利なところもあるようですが、多くの国がこまごましているし、二酸化炭素は人体にあまり良くないのでやはりへらさなきゃだと思っからです。国際協力がはやく実現することをのぞみます。

解決方法に具体性がほしいです。

(資料10; 生徒M)

字は心で

私は、人口問題の少子化について調べています。日本は、解決のためには、意見交換やグループワークなどいろいろな方法があります。私は、日本の方法が良いと思います。理由は、お見合いや二タリモツクリ、結婚する人増やして子供を生まなげやば、少子化の解決にはうながるなと、仕事をしていく人でも、休業できるようなり、少子化の解決につなげようと思っからです。

次から卒業レポートは少子化にしよう

(資料11)

C卒業レポート作成・発表バージョン

二月三日	必要なものを忘れなかったか?	<input type="radio"/>	自分の分担するテーマを書こう
	話し合いで自分の意見を言えたか?	<input type="radio"/>	地球温暖化とは
	自分の分担する課題を把握できたか?	<input type="radio"/>	
	記録をとりながら学習できたか?	<input type="radio"/>	
	同じグループの人と協力できたか?	<input type="radio"/>	
二月四日	必要なものを忘れなかったか?	<input type="radio"/>	発表時の流れや役割分担を書こう
	パソコン室では私語をしなかったか?	<input type="radio"/>	
	自分の課題をしっかり把握して取り組めたか?	<input type="radio"/>	
	記録をとりながら学習できたか?	<input type="radio"/>	
	同じグループの人と協力できたか?	<input type="radio"/>	
二月五日	必要なものを忘れなかったか?	<input type="radio"/>	
	パソコン室では私語をしなかったか?	<input type="radio"/>	
	自分の課題をしっかり把握して取り組めたか?	<input type="radio"/>	
	分担部分のレポートを完成したか?	<input type="radio"/>	
	同じグループの人と協力できたか?	<input type="radio"/>	

グループ	テーマ	記録らん	評価
1-1	地球温暖化	卒業レポート作成の、自分の役割を把握し、グループワークの役割分担を把握した。	A
1-3	〃	思いやりのある話し合いができた。	A
5	領土問題	グループワークの役割分担を把握し、自分の役割を把握した。	A
6	松本普賢問題	卒業レポート作成の、自分の役割を把握し、グループワークの役割分担を把握した。	B
7	少子化・人口問題	卒業レポート作成の、自分の役割を把握し、グループワークの役割分担を把握した。	A
1-2	地球温暖化	卒業レポート作成の、自分の役割を把握し、グループワークの役割分担を把握した。	B
2+3	南極問題	卒業レポート作成の、自分の役割を把握し、グループワークの役割分担を把握した。	A
8	地域貢献	卒業レポート作成の、自分の役割を把握し、グループワークの役割分担を把握した。	A

1学期から取り組んできた、卒業レポートについての感想を書こう。
 私が夏に調べたのは「ヒートアイランド現象」についてだった。地球温暖化について、新たに調べることで、また違うことがわかった。また、Yさんが逆説のようなことを調べていて、違った考え方もできるようになった。

資料11の発表の評価と振り返りの際、生徒Yの発表について、1時間目に同じ記号のテーマを選択した生徒が次のような記述をした。「私が夏に調べたことは「ヒートアイランド現象」についてだったが、地球温暖化について新たに調べることができて、また違うことがわかってよかった。また、Yさんが逆説のようなことを調べていて、違った考え方もできるようになった。」

他者とかかわり合って学ぶ学習活動を取り入れたことが、思考力・判断力・表現力を育成につながったと考えられる。



(プレゼンテーションの様子)

(2) 事後アンケートから

卒業レポート評価表
 (A そうである B ややそうである C どちらともいえない D ややそうではない E そうではない)
 の5段階で○をつけてください。

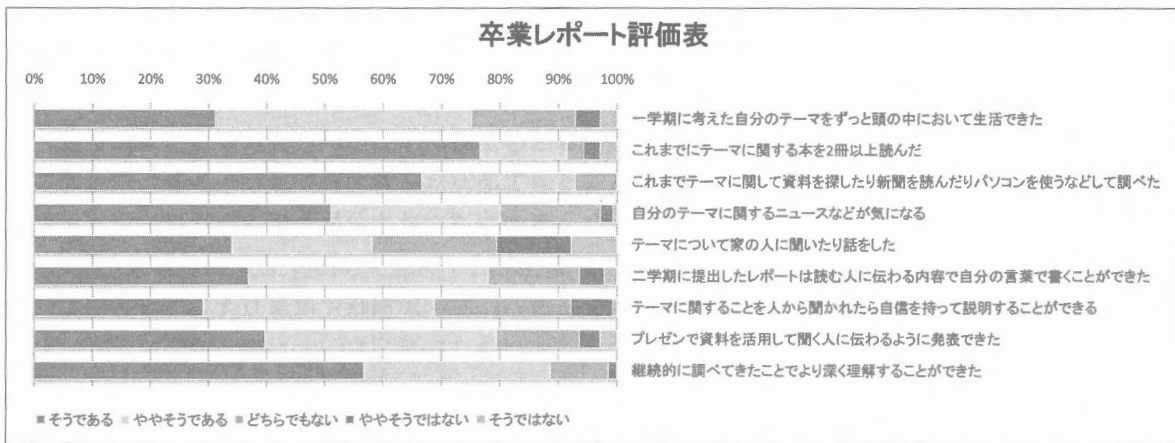
	A	B	C	D	E
一学期に考えた自分のテーマをずっと頭の中において生活できた。			○		
これまでにテーマに関する本を2冊以上読んだ。					○
これまでにテーマに関して、資料を探したり、新聞を読んだり、パソコンを使うなどして調べた。	○				
自分のテーマに関するニュースなどが気になる。	○				
テーマについて家の人に聞いたり、話をした。	○				
2学期に提出したレポートは、読む人に伝わる内容で自分の言葉で、書くことができた。			○		
テーマに関することを人に聞かれたら自信を持って説明することができる。				○	
プレゼン(用紙やパソコンを使って)、で資料を活用して、聞く人に伝わるように発表できた。				○	
継続的に、調べてきたことでより深く理解することができた。	○				

地球規模の問題について、一番重大さに気づかされたのは誰の発表でしたか？(またはどのテーマの発表ですか?) 具体的に書いてください。
 発表は数が多い卒業発表について、その発表の1人でした。
 ほかの班の発表環境についての発表を聞いて、改めて環境問題の重大さに気づかされました。特に平均気温については毎年冬に雪が苦しいので、夏は暑くなくていい身体に感じることができるので、内容を聞いて、問題解決は困難だと思われ

個人研究形式で、自らの体験や既習の知識とのつながりで設定した課題(テーマ)を、通年で取り組む利点は、「(1)抽出した生徒のワークシートから」の項で述べたとおりである。アンケートの「継続的に調べてきたことでより深く理解することができた」という項目では、「そうである」「ややそうである」をあわせて88%を占めていることから、生徒自身も実感していると考えられる。ただし、通年で取り組んだにもかかわらず「テーマについて家の人に聞いたり話をした」という項目は、60%程度にとどまっている。公民的分野では、クラスメートだけでなく、すでに社会に出ている大人とのかかわり合いが、思考力・判断力・表現力の育成に大きく関わると考えられるため、この点は今後の課題である。

調べた内容を表現する方法にも、文章で書く、ことばで話す、資料で示すといった様々な方法がある。アンケートの結果では「テーマに関することを人に聞かれたら自信を持って説明することができる」という項目は、書くことや資料で示すことを聞いた項目より評価が低かった。第6時のこ

とばでの説明しあう議論場面のあり方も今後の課題である。



(3) 生徒の記述から

資料11の「一学期から取り組んできた卒業レポートの感想を書こう」という欄には、今回の研究仮説「通年の個人研究形式で行い、他者とかかわり合って学ぶ学習活動を取り入れた単元構成にすれば、思考力・判断力・表現力が育つであろう。」に関する次のような記述が見られた。

- ・(前略) こんなに一つの問題に対して取り組んだことがなかったのでおもしろかったです。
- ・自分なりに環境問題について考え、意見を持つことができました。友達との意見交換もできて一人ひとりの説明によって理解することができました。(後略)
- ・みんな別々のことを調べていましたが、最後の発表を聞くと、みんなのが少しずつ関係しているようで、少し感動しました。

- ・私の選んだ内戦というテーマは本が少なく、また刻々と変化する問題なので古い本では意味がないのでけっこう大変でした。でも一つのテーマについてとことん追求できたのは、とてもおもしろかった楽しかったです。自分にとって遠い問題も少し身近に感じることができてよかったです。
- ・卒業レポートは今までの学習で得た知識をフル活用し、中学生最後の調べ学習でよいものになったと思います。(後略)
- ・一つのテーマについて、じっくり調べることができ、同じグループの人やクラスの人と共有することですごく知識が増えたと思います。(後略)
- ・テーマを広くとらえすぎると調べるときに困ることを学びました。どのようにして相手に伝わりやすい文にするか予想以上に大変でした。レポートに取り組むことによって世界のさまざまな問題が繋がっていることがわかりました。

下線部の記述からは、他者とかかわり合って学ぶ学習活動が多面的・多角的な考察や事象間の関連をつかむこと、自分の言葉で表現することにつながっていることがうかがえ、「思考力・判断力・表現力の育成」に有効であることがわかった。しかしながら、アンケートでもみられたように生徒は、ひとつの問題について継続してじっくり取り組むことは「深い理解」につながったと捉えているようである。他者とかかわり合って学んだことについても下線部の記述の中に「理解」や「知識が増えた」と表現している生徒もいる。この点については、生徒自身が「思考力(判断力・表現力)が育った」という表現を普段からしないことや、思考力・判断力・表現力が育ったことによって社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解し、知識として定着したと感じているため「知識・理解」といった表現につながると考えられる。

おわりに

2年間にわたり試行錯誤しながら実践した、公民的分野「よりよい社会を目指して」の単元構成について、新学習指導要領の完全実施まであと2年という今、まとめることができてよかったと思う。本単元を継続的に通年の個人研究形式で実施したことについては生徒にはおおむね好評であった。生徒が記述しているように、中学校の社会科の授業では、なかなか1つのテーマをじっくりと追究する機会は持ちにくい。この点では、この単元構成は有意義であったと考えている。しかし、思考力・判断力・表現力の育成の検証方法については、アンケートや記述では十分検証できたとはいえ、課題が残った。個人研究形式で生徒一人ひとりの課題が違うためイメージマップを使わなかったが、「よりよい社会」についてのイメージマップを作成させるなど、次回実施時にはよりよい検証方法を考えていきたい。

参考文献

- ・文部科学省「中学校学習指導要領」(平成20年3月告示)
- ・同「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月)
- ・社会科 中学生の公民 初訂版 指導書(2006) 帝国書院
- ・全国社会科教育学会編(2007)「中学校・高校の"優れた社会科授業"の条件」 明治図書
- ・桑原敏典 佐藤育美 小笠原優貴(2009)「よりよい社会のあり方を探究させる中学校社会科の単元開発」 岡山大学大学院教育学研究科研究集録
- ・桑原敏典(2009)「社会科の指導計画作成と授業づくり」 明治図書
- ・森分孝治 片上宗二編(2000)「社会科 重要用語300の基礎知識」 明治図書
- ・平成21年度 島根大学教育学部附属学校園研究紀要(2009)

(たけざき ようこ 社会科 takezaki-y@edu.shimane-u.ac.jp)